

平成28年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	分かる授業を実践することによって、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図り、キャリア教育の実践と3年間の進路指導態勢の充実を図り、進路志望100%実現を目指す。 ・ICTや学び直しの効果的な活用と評価及びアクティブ・ラーニングの充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・学習規律を遵守させる指導を徹底し、学習習慣の確立を組織的に指導する。	各教科 教務課	学び直しのための教材を作成し、活用した教員の割合が  A:100% B:95% 以上 C:90% 以上 D:90% 未満	教職員調査 (12月実施)  肯定的評価 A(52.4)+B(42.9) =95.3%  達成度: B	前回(7月は85.8%)と比べて、9.5ポイント増加した。前年度もこの時期は前期より増加しており、2学期以降の授業では積極的に取り入れ易いと思われる。更に100%の達成率を目指し、学習意欲の喚起を図る工夫を重ねたい。
	書画カメラやパワーポイントなどのICTを活用し、映像や視覚的な効果を取り入れ、学習意欲を喚起し、授業改善を図る。	各教科 教務課	職員がICTを年間に活用した回数が一人平均で  A:70回 以上 B:60回 以上 C:50回 以上 D:50回 未満  ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A:70% 以上 B:60% 以上 C:50% 以上 D:50% 未満	教職員調査 (12月末) 21名で1445回使用 平均68.8回  達成度: B  生徒調査 (12月実施) A(23.4)+B(44.3) =67.8%  達成度: B	ICT利用の授業は4月~12月までの集計であり、年度末にはA評価が達成される見込みである。ただ、職員間には使用頻度にかなり差があるので頻度の高い教員の活用方法を参考にしながら気軽に授業に利用できる意識を持って取り組むようにしたい。 生徒は、ICTの利用によって学習意欲が高まったと感じている割合は8ポイント下がった。一方授業評価では70%で7月より15ポイント増加している。学習への興味関心を惹くことと意欲の向上にバランスを欠いている。今後の授業で学習意欲の向上につながるような活用の仕方を研究していく必要がある。
	「学びの4か条」や学習規律の遵守に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律を守っている生徒の割合が A:95% 以上 B:85% 以上 C:80% 以上 D:80% 未満	教職員調査 (12月実施) A(57.1)+B(38.1) =95.2% 達成度: A  生徒調査 (12月実施) A(37.7)+B(43.7) =81.4% 達成度: C	授業での学習規律を確保出来ているとは言えないとする教員がいるので、全校の共通理解として100%を目指して規律の徹底に努めたい。 一方で、自身が規律を守っていると考えている生徒が7月より4ポイント減少した。 授業の開始時に「学びの四か条」の校内ルールを確認し、規律を守らない生徒には、毅然とした態度で根拠を示して対応し、学習に集中できるよう指導を徹底する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 分かる授業を実践することによって、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図り、キャリア教育の実践と3年間の進路指導態勢の充実を図り、進路志望100%実現を目指す。 ・ICTや学び直しの効果的な活用と評価及びアクティブ・ラーニングの充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・学習規律を遵守させる指導を徹底し、学習習慣の確立を組織的に指導する。	アクティブ・ラーニングの充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、分かる授業づくりを実践し、基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れている教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査 (12月実施)  A(33.3)+B(57.1) =90.4%  達成度：A	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は増えている(4月～12月で一人平均50.0回)。生徒への授業評価アンケートでは、アクティブ・ラーニングを通して思考力・表現力が高まったとする割合は74%と7月調査より8ポイント増加している。今後も効果を上げるための授業研究が必要である。
	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課	家庭学習時間が平日60分以上、休日120分以上の生徒の割合が  A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査 (12月実施) 平日60分以上 H28 55.5% H27 45.8% 休日120分以上 H28 28.3% H27 20.9%  平日達成度：C 休日達成度：D	平日60分以上は7月に対して微増、昨年同期より9.7ポイント上昇、休日120分以上は7月に対して2ポイント減少、昨年同期より7.4ポイント増加した。目標達成はかなり難しいが、週末課題や宿題・課題の取組など今後も粘り強く指導する必要がある。生徒への授業評価では、予習復習をしている生徒の割合は70%と7月調査より3ポイント増加した。特に1年生は56%と2、3年生より20ポイント程度低いので今後も全教職員で徹底した指導を行いたい。
	上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指導課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる生徒の割合が  A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査 (12月実施) A(39.5)+B(37.1) =76.6%  達成度：B	本年度のキャリア学習は、各学年において、特に次の点に留意して実施した。すなわち、生徒の資質の伸張に配慮した3年計画を立てる。校内行事と校外行事とのバランスに配慮する。講義形式・参加型等の多様な形式にする。7月の調査では81.5%に伸びたが、12月時点では4.9ポイント減少。前年度より1.2ポイント減少であった。3年計画に加えて、学習意欲と進路意識は進路実現を支える両輪なので、活動の停滞しがちな2学期を改善すべく、各学期毎にトピックとなるものを設けて、就職・進学とも継続的に指導をしていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 分かる授業を実践することによって、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図り、キャリア教育の実践と3年間の進路指導態勢の充実を図り、進路志望100%実現を目指す。 ・ICTや学び直しの効果的な活用と評価及びアクティブ・ラーニングの充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・学習規律を遵守させる指導を徹底し、学習習慣の確立を組織的に指導する。	ホーム担任が、卒業後の進路に対する個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が  A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (12月実施)  A(31.1)+B(42.5) =73.6%  達成度：B	前年度同時期は72.1%であり、1.5ポイント増加したが、7月時点より4.9ポイント減少。各担任は面談において、定期試験の成績、出欠や部活動の状況など生徒の学校生活全般を捉え、同時に行事等での様子にも言及して、常に自己の日常的活動とキャリア学習を結びつけ、生徒が進路実現への意欲を持ち続けるよう指導している。進路・学年一体となって情報を共有し、生徒との信頼関係を構築し、適時の声掛け・指導がなされるよう、一層の努力が必要である。
	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒の進路志望100%実現を目指す。	進路指導課 各学年	生徒の進路志望の実現率が A：就職・進学の実現率100% 国公立大合格者2名以上 B：就職・進学の実現率100% 国公立大合格者1名 C：就職・進学の実現率100% 国公立大合格者なし D：就職・進学の実現率100%未満 国公立大合格者なし	達成度がC、Dの場合、指導法の改善に努める。  達成度：C	2月10日現在 現在の3年生の進路決定人数について 進学：19名 就職：28名 その他：2名（家事手伝い等）
学校関係者評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトだけではなく、アイパッドの活用がすすんでいるということで、校内研修の充実を含め、効果的な活用にむけた取組をさらに推進して欲しい。</li> <li>・高校を卒業してすぐに就職となると、相当な覚悟が必要になると思う。2、3年生の就職希望者に関しては、目的意識を持って仕事ができるよう就職に対する心構えの指導を十分にしていきたい。</li> </ul>				
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの活用については、使い慣れている教員等を講師とした校内研修を実施するとともに、研究授業を通して教員全員の実践力を高めていきたい。</li> <li>・生徒の進路意識を高めるための社会人講話や企業見学・学校見学を通して社会人としての心構えの指導を十分に行っていきたい。</li> </ul>				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	生徒は、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。	生徒指導課 各学年	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が  A：95% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査 (12月実施) (7月) (12月) 自ら進んで挨拶している生徒 75.0% 80.0%  服装・頭髪がきちんとしている生徒 89.3% 83.2%  達成度：C	「自ら進んで挨拶ができる」生徒の割合は80.0%で今年度7月の生徒調査より5.0ポイント上昇。1年が学校生活に慣れたこと、生徒会の挨拶運動や挨拶の重要性や必要性を校内放送で訴えること等によって、生徒自身が積極的に生徒玄関前や廊下、さらに授業での挨拶をきちんとやろうとする意識が高まったと思われる。次に、「服装・頭髪の身だしなみがきちんとしている」生徒の割合は7月には89.3%であったが、12月の調査では83.2%と6.1ポイント減少した。しかし、4月当初から毎月の頭髪検査の不合格者の数は減少傾向にあり、実際のところ生徒の規範意識は、高まっているように思われる。日頃の授業や教育活動を通してより一層きちんとした挨拶や身だしなみの指導を全教職員挙げて取り組んでいきたい。
2	生徒は、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。	生徒指導課 各学年	1日の平均遅刻者数指標 1学年 4人以内 2学年 3人以内 3学年 2人以内  1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった	(7月) (12月)  1学年 0.68人 1.44人  2学年 2.27人 1.81人  3学年 0.41人 0.72人  達成度：A	各ホーム担任が日頃、保護者へ電話連絡をしたり、他の教職員との生徒の情報交換を密にしているため、目標を達成できている。 1年は、7月比2.1倍増え、一部に学校不適應を持つ生徒が夏休み明け以降、遅刻をしがちになった。2年は2割減少し、来年度の進路決定を見据えて学校生活を見直し、生活を改善して遅刻を減らす努力が見られた。3年は、7月比1.8倍増え、進路決定した気の緩みから遅刻が増える傾向が見られた。 いずれの学年も遅刻の回数も0ではなく、全教職員が生徒指導に取り組み、遅刻ゼロを実現するように取り組んでいく。
	個々の生徒に応じたきめ細かな面談と面談週間(6・11月)を通じ、ホーム担任、教科担当、部活動顧問やスクールカウンセラー等との連携により、学習や学校生活等の支援体制の充実を図る。	厚生課 各学年	生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が  A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査(12月) 学習の悩みへの肯定的割合 A(35.3)+B(41.9) =77.2% 学校生活の悩みへの肯定的割合 A(35.9)+B(39.5) =75.4% 達成度：B	12月実施の生徒アンケートでは、学習に関する質問や悩みに対して7月の73.2%(前年度比+7.2ポイント)から77.2%と約4ポイント増となった。学校生活の悩みに対しては78.6%(前年度比+13.1ポイント)から75.4%とほぼ変化なく、ほとんどの生徒が肯定的な評価をしている。 面談結果を学年、担任、教科担当、部顧問等と共有し、生徒理解を深めることができた。 学年進行が進むにつれ、さまざまな悩みを抱える生徒が増加することが予想されるので、さらに積極的な支援を充実させていきたい。

学校関係者評価委員の評価		・しっかりした挨拶と遅刻をしないというのは社会人の絶対条件なので、少なくなったから良いでは無く今後も指導していただきたい。事情がある場合は、必ず事前に連絡するなど社会の常識も含めて指導していただきたい。				
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・遅刻指導や挨拶・頭髪服装の指導等が、社会人の常識として捉えられるよう、より一層粘り強い指導に取り組んでいきたい。				
重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)	
3 生徒と積極的にかかわりを持ち、部活動の一層の活性化・充実を図る。学校行事、生徒会活動、部活動、地域への貢献活動やボランティア活動で、生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、宝達高生としての母校への帰属意識や自己有用感の涵養に努め、人間性や社会性を磨く。	生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	所属する係の仕事を理解し、活動することができたという生徒の割合が  A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	生徒調査 (12月実施)  A(44.9)+B(37.7) =82.6%  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成度 : A</span>	係分担や委員会活動においては、82.6%(7月比+2.2ポイント)の生徒が役割を理解し活動できたと回答している。年度当初や学期初めの打ち合わせをしっかりと行い、学校全体として組織的に取り組むことができた。また、各委員会顧問や、ホーム担任が活動について明確な指示を与えることができ、充実した活動ができたという達成感が得られたものと思われる。 次年度も、年度当初や学期初めの打ち合わせを入念に行い、生徒が達成感を得られることができる充実した校内活動となるようにしていきたい。	
	生徒会と連携し、清掃の大切さを呼びかけ、平常清掃への積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への意識を高める。	生徒会課 厚生課	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が  A : 90% B : 85% 以上 C : 80% 以上 D : 80% 未満	生徒調査 (12月実施)  A(44.9)+B(37.7) =82.6%  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成度 : C</span>	7月比で約7ポイント減となり、生徒の一部に清掃を軽視する態度が見られるので、清掃活動を怠ることなく指示や点検の徹底を図りたい。今後は清掃活動の大切さをしっかりと感じさせることができるよう、環境整備委員会の呼びかけを行い、美化コンクールだけでなく、普段の清掃役割分担など、活動が自主的なものとなるようコーディネートしていかなければならない。	
	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	年間を通して部活動に加入して部活動を行っている生徒の割合が  A : 95% B : 90% 以上 C : 85% 以上 D : 85% 未満	生徒調査 (12月実施) 肯定的回答の割合 ・1,2年生...79.5% ・3年生...63% ・全体...76%  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成度 : D</span>  (加入率 99.4%)	加入率は99.4%である。部活動所属は指導できているが、部活動への参加に関しては、活動状況が良好であると判断している生徒は76%に留まっている。(7月比-6ポイント) 運動部から文化部へ転部した生徒や活動日が頻繁ではない生徒は、「部活動を行っている」という感覚が少し弱いということが考えられる。また、3年は部活動を引退し、すでに活動をしていないという回答をした生徒も多いようである。 活動日にはきちんと出席する指導を継続していくべきである。	

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3	生徒会や部単位での活動を主として、宝達・敷浪・免田駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が  A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (12月実施)  A(31.7)+B(39.5) =71.4%  達成度：B	肯定的な回答をした生徒の割合が、7月調査で71.4%(昨年度比+6.3%)であったが、今回もその回答の割合は同じであった。今年度実施した、ボランティアバンクにより、ボランティアへの意識は少しずつ高まってきている。ボランティア活動に至るまでの、道徳教育も含め、次年度はさらに積極的に取り組む生徒の割合を増やせるよう生徒会からの発信の工夫も検討していきたい。
学校関係者評価委員の評価		・フラワーロード活動や宝寿荘でのボランティア活動などは、大きな声で言わなくてもメディアを活用して発信することで、地域の人に知ってもらい、存在感を高めていただきたい。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・ボランティア活動等地域への貢献活動は、今後も取組を継続して行い、全校生徒の意識向上に努めるとともに、広報のあり方も検討していきたい。			
重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4	積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	総務課 各学年	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが  A：85% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査 (12月実施) A(38.3)+B(36.5) =74.8% 達成度：D  保護者調査 (12月実施) A(26.1)+B(58.3) =84.4% 達成度：B	7月の達成度は生徒・保護者ともAと高かったが、12月では共に達成度は下がった。特に生徒の評価において、A評価が50.6% 38.3%と減少、中でも1年生の肯定的評価が70%に減少している。これは学校生活に慣れ、緊張感が低下してしまったのではないかと分析している。生徒の「配付物を届けた」肯定的割合は、7月比では86.3% 74.8%で11.5ポイント減少、保護者の「学校情報を知ることができた」肯定的割合は86.5% 84.4%で2.1ポイント減少であった。 今後は、月初めに各種便りが発行されたことを、一斉メールで配信し、家庭でも「提出物は？」と声かけができる様な取り組みをするとともに、メール配信登録の割合を上昇させることにも取り組んでいきたい。(昨年度68.9% 今年度68%)

4	積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	情報提供は、文書やHPの更新を通して、きめ細かく発信するとともに、学校からの情報提供への保護者の満足度を高める。 また、地域や中学校等への情報発信に努め、本校の良さを伝えることで、生徒募集に資するように努める。	総務課 各学年	学校からの情報提供が満足であったという保護者の割合が  A：80% 以上 B：70% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	保護者調査 (12月実施) A(26.1)+B(58.3) =84.4% 達成度：A	「学校からの配布物やHPなどを通して本校の教育活動の情報を得ることができる」という項目において、肯定的割合は昨年同期(76.8%)より7.6ポイント上昇しているため、昨年度より満足度は高いと思われるが、7月比では86.5% 84.4%で2.1ポイントの減少で大きな変化はない。 今後もきめ細かな情報発信に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員の評価		・様々な広報活動や中学生との交流も行っているが、地域住民と密着して活動していることをマスコミを利用してPRする必要がある。				
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・生徒のボランティア活動や様々な取り組みを地域の皆様に知っていただくため、町の広報誌に毎月広報記事を掲載させていただき、また、ケーブルTVの取材依頼も頻繁に行っていきたい。				